

中高生  
100万人

「プロフ」という携帯電話サイトをご存じか。いま中高生らに大人気で、ネット上に自己紹介のページを作るサーブだ。だが、これが新たないじめの温床になっているという。親が知らない間に、我が子がいじめの被害、あるいは加害者になっているかもしれないのだ。



サンデー毎日 2007年4月29日号より転載

子どもたちも携帯電話は必需品だが……。プロフは小学生でも簡単に作れそう（写真中央）

# 携帯ネット「プロフ」 親の知らない陰湿いじめ

メールで  
人を殺す

いブラジャー姿の写真を載せている。  
「エッチ自慢やこないじめをしたとか、犯罪自慢まで書き込んでいる。本人は万人に見られているという意識が薄いんです。」  
そう話すのは、ネット情報に精通するジャーナリストの後藤ひろ氏だ。取材で小5の女の子のプロフにアクセスしたところ、メールアドレスと携帯番号が送られてきたという。子どもたちは援助交際を求める女の子もいるという。  
近所の公園や学校の写真を載せたり、書き込みをすれば、変質者に待ち伏せされる危険性もある。例えば昨年10月、長野県の小6女児が行方不明となり、4日後に保護された事件が起きた。女児が携帯サイトに書き込み、それにアクセスした31歳の男が巧みに誘い出したのだ。  
群馬大学社会学部学部の下田博次教授の研究室では、

学生たちが中心になり、こうした携帯サイトを実態調査している。  
「実は、プロフが流行する前は『学校裏サイト』と呼ばれる、小学生から高校生らが管理する掲示板サイトが人気を集めていた。学校の噂や情報を交換する一方、個人への誹謗中傷や、いじめ」  
「学校裏サイトからプロフへ、新しいネット遊びが次々と考え出されていく。親は自分が買いつけた携帯で子どもが何をしているか、まったく気づいていないことが多い。知る努力さえしていないと感じます。」  
そう下田教授は嘆く。研究室では有害サイトを見つけたら、管理者や学校に注意喚起する活動をしている。群馬県の学校裏サイトだけでなく2200リンクけたが、プロフなどの見つけたが、アクセス切れない。携帯サイトの広まりとともに、暴力的

名で中傷。当初、本人は書かれていたことをまったく知らなかったという。「匿名プロフを開設して、写真などで相手を特定できるので、陰湿ないじめが起きやすい。検察すれば、誰でも閲覧できますから。」  
「そう話すのは、インターネット協会主任研究員の大久保貴世氏だ。大久保氏によれば、最近、高2男子が知り合いのブログにこんな書き込みを見つけたという。この子を集団暴行させなか？」  
「この子」というのは、友人の女子高校生。写真付きプロフがリンクとして張られていた。何者かによって、女子高生のプロフが勝手にコピーされていたのだ。  
「被害者が運営会社には、この子悪質な書き込みの削除を依頼するケースが増えています（大久保氏）」  
「知らない間に、私の名前でも、同性愛者と書かれたプロフを作られていた」と、都内の男子中学生が

めを誘発する書き込みが絶えない。例えば――  
「××ウザクねえ」 男子  
「××女子にも嫌われて」  
「去年いた××、チョーイーエッチしてたよ。そいつとならシメもいいのかな。××つても抵抗しないだろ。」  
「××は実名だ。本人が見たら、どれだけ傷つか。」  
「子どもは自由にネットをさせているのは日本だけです。海外の友人は、信じられないと言っています。」  
「言うまでもなく、いまや携帯はネット端末。尾花氏が警告する。  
「サイトを見るな、と言えは言うほど、子どもは見ているから大丈夫。」と思っていない親は甘いのです。被害者が一転、加害者にもなるのがネットのいじめ。親はもっと子どものことを気にかけてほしい。」  
子ども同士の陰湿ないじめを助長する原因の一つは、大人の無関心なのだ。  
本誌 五十嵐英美

「プロフとは『プロフィール』の略。携帯電話から『運営サイト』『アクセス』などの名前や住所、趣味などを書き込んでいくと、自己紹介のページが出来る。そこには、書き込み欄もあり他人とやり取りができる。」  
昨年夏頃から中高生を中心に急速に広がって、約100万人が利用しているという。学校や塾などで名刺代わりに、「プロフ交換しよう」というのが、子どもたちの台言葉らしい。本誌記者もアクセスしてみたが、実際、身長・体重やメールアドレス、写真などといった個人情報満載だ。  
だからこそ、悪用される危険性がある。首都圏のある中学校では女子生徒がアップした写真が「可愛い」と評判になった。ところが、それをネタに子がいて、「そんな子じゃないよ。」などと、別の掲示板で実

名で中傷。当初、本人は書かれていたことをまったく知らなかったという。「匿名プロフを開設して、写真などで相手を特定できるので、陰湿ないじめが起きやすい。検察すれば、誰でも閲覧できますから。」  
「そう話すのは、インターネット協会主任研究員の大久保貴世氏だ。大久保氏によれば、最近、高2男子が知り合いのブログにこんな書き込みを見つけたという。この子を集団暴行させなか？」  
「この子」というのは、友人の女子高校生。写真付きプロフがリンクとして張られていた。何者かによって、女子高生のプロフが勝手にコピーされていたのだ。  
「被害者が運営会社には、この子悪質な書き込みの削除を依頼するケースが増えています（大久保氏）」  
「知らない間に、私の名前でも、同性愛者と書かれたプロフを作られていた」と、都内の男子中学生が

家族と一緒に監視下に相談したケースもある。男子を知る誰かが偽装プロフを開設したとみられる。「ちよつと見ただけでは誰の作業か分からないのがネットいじめの特徴だ（大久保氏）」というが、第三者になりすますのは犯罪行為だ。  
子ども同士のネット事情に詳しい、教育アドバイザーの尾花紀子氏が話す。  
「いまは小学1〜2年でもプロフを持っていますが、親は知らないことが多い。教師もどう処理したらいいか分からず、手を焼いているのが現状です。」  
「はつきり言つて、携帯サイトは無法地帯なのだ。小学生のアクセスランキング上位のプロフには、こんな記述がある。  
「趣味、えっち  
「長所 男の仔を満足させること。」  
「特技 精子を飲む」  
「驚くなかれ、書いているのは小6の女の子。自分の部屋で鏡を見て撮つたらし